



## 👁️👁️ みどころ

あべのハルカス、上海タワーそして、ドバイのブルジュ・ハリファ。世界に高層建築物は多いが、本作に見る香港の“ザ・パール”は別格！

導入部では、誰もがその夢のような姿に酔いしれるはずだが、さてテロリスト対策は？火災が発生すると、その自動消火システムは・・・？

本作ではそんな興味も強いが、実は頭を空っぽにして“トム・クルーズ越え”を狙う主人公のアクションに注目！“アメリカ・ファースト”ならぬ“ファミリー・ファースト”を貫くこの男にかかれば、妻子救出のためには、不可能などなし！

### ■□ザ・パールとは？VS あべのハルカス、上海タワー等■□

2014年3月に大阪のJR天王寺駅前に登場したあべのハルカスは、地上300メートルで、2017年現在、日本で最も高いビル。世界一高い建物は、長い間、上海の上海タワーで632メートルだったが、2010年にアラブ首長国連邦のドバイにできた全高828メートルのブルジュ・ハリファがそれを更新した。それに対して、本作に登場するザ・パールは高さ1066メートル、階数240階だが、ただの超高層ビルではないところがミソだ。

パンフレットには、「PRODUCTION INFORMATION」で詳しい解説がされている他、「ザ・パール」の詳しい仕様が①風力タービン（エコロジーな超高層ビル）、②超高層アパートメント（空中でのラグジュアリーな暮らし）、③最新鋭のセキュリティシステム（ザ・パールの最優先事項）、④ショッピングモール（超高層で最高のショッピングを）、等に分けて説明されている。何よりも注目すべきは、ザ・パールはただの超高層建築ビルではなく、アイデア・哲学・夢であり、テクノロジーと建築デザインの驚異であり、古代の寓話

「The Pearl and the Dragon (真珠と竜)」にインスパイアされた建造物であることだ。本作では、まずザ・パールにまつわる物語とザ・パールの“仕様をしっかり理解したい。

### ■□■高層建造物の危険性は？火事になったら・・・？■□■

私は長年都市問題と土地問題をライフワークとする中、とりわけ再開発問題を中心に取り組んできたが、そこで次々と興味湧いてきたのが、高層建造物を核としたまちづくりだ。今から約30年前の1987年9月27日の朝日新聞「ひと」の欄には、東京の赤坂・六本木再開発で1986年に完成したアークヒルズの印象を語る私の姿が載っているが、本作のザ・パールの姿を見れば、その時の興味が更に深まってくる。

しかし、近時の地震等の災害によって、エレベーターを中心とする高層マンションの被害が相次いでいる現状でザ・パールを見れば、高層建造物にも安全性の面で不安があるのは当然だ。『タワーリング・インフェルノ』(74年)を見れば高層建造物の火事の危険性がよく分かるし、『タイタニック』(97年)を見れば、あのタイタニック号でさえ沈んでしまったのだから、ザ・パールがいかにも近代テクノロジーを誇っても、火事になったらイチコロ・・・？そう思えなくもないが、さてザ・パールにそんな常識が通用するの・・・？

### ■□■主人公の生き方は？仕事ぶりは？■□■

本作冒頭、ウィル・ソーヤー(ドウェイン・ジョンソン)がFBI人質救出部隊のリーダーとして、人質の子供を抱いた犯人と交渉する姿が描かれる。そこで、ウィルが犯人は銃を持っていないと判断したのが大きな間違い。確かに犯人は銃は持っていなかったが、爆弾を持っており、それで自爆したため、ウィルも瀕死の重傷を負い、左足を失うことに。心身ともに傷を負って職務を退いたウィルは、今は妻サラ・ソーヤー(ネーヴ・キャンベル)と2人の子供と共に幸せな家庭を築き、“ファミリー・ファースト”の生き方に方向転換(?)していた。

ウィルの今の仕事は前職を活かした危機管理コンサルタントだから、ザ・パールの設計者であるジャオ(チン・ハン)が、ザ・パールの保安査定を依頼するにはウィルが最適。そんな見込み通り、ウィルは確実な仕事ぶりでザ・パールの保安査定を終え、香港を後にしようとしたが、丁度その時、シア(ハンナ・クインリヴァン)をリーダーとするテロリストがザ・パールを襲撃!ハイテク装備のザ・パールでは、すべての安全性はコンピュータで制御されていたから、ある意味その安全性は折り紙つき。しかし、逆にそのハイテク装備が解除されたり、ロックされたりすると、その再稼働が難しくなるのは当然だ。スマホ一つにしても設定されたパスワードがわからなくなれば、全く動かなくなってしまうのだから、ザ・パールほど高度にハイテク装備されたビルの安全管理はかえって難しい。

ウィルはジャオからの依頼で保安査定をしたことによって、ザ・パールの仕様を知りつくすことになり、“保安査定OK”を出したが、それはテロリストが襲来してもOKということ?いやいや、そんなことは、きっと想定外だろう。

### ■□■テロリスト対策も万全?いやいや、現実は?■□■

ザ・パールほどの“テクノロジーと建築デザイン驚異”ともなれば、自然災害に対する備えは万全だろうが、テロリストの襲撃に対しては・・・？ウィルがそれに対しても“保安査定 OK”を出したのかどうかは知らないが、本作を観ていると、テロリストたちは意外に簡単にザ・パールの機械室に入り込んでいるから、アレ・・・？そもそも、テロリストたちは常時 300 人の警備員が滞在し、最先端のセキュリティシステムで防御され、高度な AI 監視モニターで 24 時間 365 日チェックされているザ・パールの中にどうやって侵入するの？また、どうやって火災を発生させ、どうやって火災自動消火装置の作動を不可能にさせるの？本作ではそれが大きなポイントになるから、少し荒っぽいところもあるが、本作ではそんなテロリストたちのハイテクに関する行動をしっかりと確認したい。

他方、ウィルとその妻子たちは、ザ・パールの高層階にある居住部分にはじめて足を踏み入れたお客様。70 基もある高速エレベーターの乗り心地は素晴らしいといえば素晴らしいし、まるで宙に浮いて世界を見下ろしているかのような、360 度見渡せる香港の景色も絶景といえば絶景。もちろんファミリーが生活する居住空間の開放性も解放感も明るさいっぱいだから、素晴らしいといえば素晴らしい。しかし、いざホントにここに住んでみたいかと言われると、私は？？？だが、さてウィルの妻子たちは？スクリーン上に観るサラや子供たちの表情を見ると、どうも私と同じような気持ち。ザ・パールへの“最初の入居者”というだけでなく、そこで起きた大火災の“最初の被害者”になりそうになれば、それはなおさらだ。火事は“自動消火システム”で一気に鎮火されるはずだが、さて現実には？もし火が消えなければ、サラとその 2 人子供はどこをどう逃げればいいのか？

## ■□■高さの他、アクションでもトム・クルーズ越えを！■□■

テロリストたちの手によってザ・パールの中に起きた火災で、妻子が危険に陥る中、外での仕事に従事していたウィルは妻子を救出するために直ちに戻ってきたが、いくらウィルでも大混乱の中一人でザ・パールの中に入ることは不可能だ。そこで、彼がザ・パールの高層階で立ち往生しているはずの妻子を救出するためにとった行動とは・・・？

私は観ていないが、トム・クルーズは『ミッション：インポッシブル ゴースト・プロトコル』（11 年）でドバイにある全高 828 メートル、206 階建てのブルジュ・ハリファを舞台に大アクションを展開したそう。ならば、俺だって！ウィルがそう考えたかどうかは知らないが、ビルの高さでも俺の方がトムに勝っているから、アクションだってトムに負けるものか！とばかりに、ウィルは次から次へとハードなアクションを！

本作のパンフレットには斉藤博昭（映画ジャーナリスト）の「誰もが好きになるドウェイン・ジョンソン。その新たな方向性に夢もふくらむ！」と、相馬学（映画ライター）の「豪快に“盛った”、そんな感覚が嬉しいエンタテインメント大作」というコラムがある。本作中盤では、それも参考にしながら、スクリーン狭しとばかりに暴れ回るウィルのアクションに注目し、それを心ゆくまでたっぷりと楽しみたい。

2018（平成30）年10月9日記